

1. 前回の授業

今日、授業で、途中より理解するのが、難しくなってきた

前回の授業では、やや話が盛りだくさんで、相互関係を十分に説明できなかったと思って反省しています。理解するのが難しかった、というのは、よく授業を聞いていた証拠です！
まず、9.3では、社会学を研究するときも科学のABCの方法が使われていることを示しました。9.4では、大塚の指摘を紹介し、マルクスは自然科学と同じだと主張したのに対し、ヴェーバーは、やはり自然科学とは違う点があることを主張していると指摘しました。それは、目的一手段という観点です。9.5では、同時に大塚は、社会学は個別の科学であるという側面を指摘し、それを欠点であるかのように述べるのは誤りで、気象学も同様ではないか、と指摘します。ただしこの点については、逆に、ポパーや池内の指摘によって、むしろ気象学のような個別の科学は反証可能ではないので純粋に「科学」とは言えないのではないかと、という指摘があることをお話ししました(9.6)。反証可能でないことの典型的な例は、人間の選択です。そこで、人間の選択について考える研究としてアリエリとアイエンガーを紹介して終わりました。次回は、アリエリとアエンガーの話をしします。

2. 不合理な人の判断

人間の自由意志とサイコロに違いはあるのか、

人間の選択は自由意志からの結果だと言っても、それは人々がこれまで持っている経験から、環境から無意識で導き出した結果だと思いたい。

人間の不合理と関係しては、これも自分の悩み。

人間の感情に比べて多くの知識をつけて、感情というものを合理的に考えることで、人間の不合理な行動を説明することはできないのかと

無意識の選択を悪い方に利用されたら怖いと思った。

行動経済学や心理学は、まさにそのような視点で研究されています。すなわち、人間が不合理な判断をするとしたら、それはどのようなときにしてしまうのか。そして、それを悪用することについては、時々問題になります。ここで覚えておいてほしいことは、「学ぶことは、人を助ける手段を身につけることでもあるが、人を傷つける手段を身につけることでもある」ということです。

どちらも、人間には自由意志がないのではないかと、という指摘です。ランダムな気まぐれが自由意志と違わないのではないかと。あるいは、人間は、機械のように生まれて、その後、学習、記憶、経験、などを経て今のようになったので、何かを見て判断したことは、単なるその結果なのではないか。

科学の発達も、そのような認識をもたらす方向に進んでいます。しかし、それを認めてしまうと、例えば、犯罪者を罰する理由がありません。犯罪を犯すことは、犯罪を犯した時点で決まっていたからです。逆に、立派な行為をした人を讃える理由も無くなります。私たちの社会は、自由意志があるという前提で作られていることは同時に考えなければならぬ重要な点です。

3. 社会学・社会科学

社会学にも科学のABCが使われることに関して、正直驚きです。個人的には科学のABC = 理系の世界でしか使えないと勝手に考えていました。

今の日本人は

社畜と呼ばれつつも、たまにはかまは、そののに奮い人が多いのかなと
なせたらと疑問が生まれました

自分は他の学問と結びつけて社会学は社会学のままがいいと思った。

方法があっという間と言えます。ただ、比較することで、それまでに気づけなかった科学のABCの方法の位置づけや、適用範囲に気づくことができると考えます。

科学のABCの方法は、「何を」を限定せず、「どうやって」に着目しているため、他の分野でも使えます。

とてもいい質問ですし、社会学のテーマとして成り立つと思います！(お金は会社に蓄えられています。では、なぜそうなったか?)

その通りかもしれません。学問それぞれに、それぞれの

